

4 中学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
話・聞：話す・聞く能力
書 く：書く能力
読 む：読む能力
言 語：言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)	
A話すこと・聞くこと(1) 1年ウ 2年イ	1	一 話の内容(テーマ)を聞き取ることができる。	話・聞	65.0	26.1	
A話すこと・聞くこと(1) 1年ア 2年ウ		二 表現の仕方に注意して聞き取ることができる。	話・聞	70.0	56.7	
A話すこと・聞くこと(1) 1年イ 2年ウ		三 話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ることができる。	話・聞	65.0	83.1	
言語事項(2) 1年ア、イ 2年ア、イ	2	一 (1) 文脈の中で漢字[推(お)す]を正しく読むことができる。 (2) 文脈の中で漢字[仰(あお)いで]を正しく読むことができる。 (3) 文脈の中で漢字[寸暇(すんか)]を正しく読むことができる。	言語	70.0	77.3	
			言語	80.0	81.8	
			言語	60.0	38.1	
	二 (1) 文脈の中で漢字[テンケイテキ(典型的)]を正しく書くことができる。 (2) 文脈の中で漢字[ショウカイ(紹介)]を正しく書くことができる。 (3) 文脈の中で漢字[イトナ(ム)(営む)]を正しく書くことができる。	言語	40.0	21.9		
		言語	70.0	63.4		
		言語	80.0	84.6		
C読むこと 指導留意事項 1 (4) イ	3	一 歴史的仮名づかい[いふやう]を現代仮名づかい[いうよう]に直すことができる。	読 む	40.0	32.0	
		二 [いたはしければ]の現代の意味を、現代語訳からとらえることができる。	読 む	85.0	76.8	
言語事項(1) 1年	4	一 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係をとらえることができる。	言語	70.0	95.3	
C読むこと(1) 1年イ		二 文章の展開に即して内容をとらえることができる。	読 む	50.0	59.4	
C読むこと(1) 2・3年ウ		三 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。	読 む	70.0	49.7	
C読むこと(1) 1年ア 2・3年ア		四 文章の中における語句の意味を正確にとらえ、効果的な使い方を理解することができる。	読 む	70.0	73.5	
C読むこと(1) 1年イ		五	A 文章の展開に即して内容をとらえることができる。 B	読 む	70.0	88.1
				読 む	60.0	54.6
C読むこと(1) 1年エ		六	(1) 文章の主題を考えることができる。	読 む	65.0	63.3
C読むこと(1) 2・3年オ			(2) 必要な情報を集めて、自分の表現に役立てることができる。	読 む	60.0	61.8
C読むこと(1) 1年ウ 2・3年イ	5	一 書き手の論理の仕方を的確にとらえ、内容を理解することができる。	読 む	60.0	18.7	
C読むこと(1) 1年ウ 2・3年イ		二 書き手の論理の展開の仕方をとらえることができる。	読 む	70.0	69.4	
言語事項(1) 2年・3年オ		三 文の中の文の成分について考えることができる。	言語	40.0	27.5	
C読むこと(1) 1年イ		四	ア 文章の展開に即して内容をとらえることができる。 イ	読 む	80.0	46.7
				読 む	80.0	31.8
C読むこと(1) 1年エ		五 文章の展開に注意しながら要旨をとらえることができる。	読 む	60.0	36.4	
C読むこと(1) 1年ウ 2・3年イ	六 書き手の論理の展開の仕方をとらえることができる。	読 む	60.0	33.9		
B書くこと(2) 1年イ 2・3年イ、ウ	6	一 文の組み立てを考えて書くことができる。	書 く	60.0	70.6	
		二 自分の考えを明確にして書くことができる。	書 く	40.0	24.0	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	意見発表会のテーマ	65.0	25.8	25.3	31.8	30.8	34.7	26.0	29.4	
	二	話し方の工夫	70.0	57.3	57.9	49.3	52.0	53.9	55.3	48.4	
	三	話の内容	65.0	83.5	83.4	85.1	82.6	80.7	84.5	83.4	
2	一	(1)	「推す」の読み方	70.0	71.8	71.5	75.6	76.7	80.2	87.2	67.6
		(2)	「仰ぐ」の読み方	80.0	91.5	91.7	88.1	79.5	78.8	79.9	80.1
		(3)	「寸暇」の読み方	60.0	37.3	37.3	37.3	35.3	34.4	39.1	34.1
	二	(1)	「テンケイテキ」の書き方	40.0	22.0	22.0	22.9	22.9	22.6	19.1	25.1
		(2)	「ショウカイ」の書き方	70.0	60.0	59.7	64.2	61.3	57.7	65.8	62.5
		(3)	「イトナ(む)」の書き方	80.0	88.8	88.5	91.5	80.1	80.9	73.7	82.7
3	一	「いふやう」の現代仮名づかい	40.0	43.3	43.2	44.8	27.9	33.0	29.9	21.8	
	二	「いたはしければ」の現代における意味抽出	85.0	79.3	79.1	81.1	71.4	73.2	72.4	69.2	
4	一	文脈における語句の意味「目をうたぐった」	70.0	95.3	95.5	93.0	94.8	94.2	93.8	96.0	
	二	文章の展開に即した内容の把握	50.0	60.9	61.1	58.2	58.6	59.5	60.2	56.9	
	三	表現の仕方や特徴に注意して読むこと	70.0	61.9	62.6	52.7	49.5	47.0	41.4	56.2	
	四	文脈に即した正しい語句の選択	70.0	74.8	74.9	73.1	71.6	73.3	70.4	70.4	
	五	A	文章の展開に即した内容の把握	70.0	88.6	88.7	87.1	86.1	85.1	86.8	86.7
		B	文章の展開に即した内容の把握	60.0	54.5	54.8	49.8	51.4	51.6	53.6	50.2
	六	(1)	文章の主題の把握	65.0	62.8	62.7	63.7	62.8	61.6	66.4	62.1
		(2)	情報を収集し自分の表現に役立てること	60.0	64.7	65.2	57.7	59.4	59.3	61.8	58.1
5	一	文章の展開に即した内容の把握	60.0	20.6	20.9	17.9	15.2	15.6	15.1	14.9	
	二	文章の論理の展開の仕方の把握	70.0	69.4	69.3	70.1	70.2	68.4	65.5	74.6	
	三	文の成分の照応	40.0	29.3	29.5	27.4	19.8	18.8	18.8	21.3	
	四	ア	文章の展開に即した内容の把握	80.0	48.2	48.6	43.8	46.0	47.9	41.4	46.5
		イ	文章の展開に即した内容の把握	80.0	34.5	34.9	29.4	28.4	30.0	24.3	29.1
	五	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと	60.0	38.1	38.9	28.9	34.4	32.1	38.5	34.6	
	六	文章の論理の展開の仕方の把握	60.0	37.1	37.1	36.3	31.5	32.8	35.2	28.2	
6	一	文の組み立てを考慮して書くこと	60.0	69.9	69.7	72.6	71.6	68.1	75.3	73.2	
	二	自分の考えを明確にして書くこと	40.0	24.0	23.2	34.3	28.0	19.8	31.3	34.4	
教 科 全 体			63.9	57.0	57.0	56.0	53.6	53.4	54.0	53.5	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
24.4	23.5	25.1	23.1	29.5	26.2	26.0	30.9	24.1	23.1	23.0	23.5	26.3	25.9	27.6	26.1
54.4	54.6	55.5	52.3	53.8	57.8	60.5	57.7	56.0	57.8	59.5	51.0	59.6	59.9	58.6	56.7
83.3	84.1	80.8	83.5	82.0	83.2	82.7	85.5	82.4	82.5	82.3	83.0	83.0	82.5	84.5	83.1
80.9	83.0	78.8	76.3	78.0	76.1	77.9	73.9	76.0	74.6	75.7	70.6	81.1	81.2	80.5	77.3
80.3	82.7	71.9	78.5	81.0	76.2	80.3	72.8	75.1	83.3	83.0	84.3	78.8	79.6	75.8	81.8
33.1	34.3	30.9	29.3	33.4	39.3	41.3	39.0	38.1	39.7	38.6	43.8	43.4	46.5	33.0	38.1
16.2	17.5	13.8	11.5	18.0	20.5	20.8	18.9	21.1	32.0	37.4	11.1	24.7	25.8	21.0	21.9
64.9	63.3	71.6	59.2	70.5	61.4	62.4	61.2	60.8	64.1	63.1	68.0	67.7	68.1	66.4	63.4
83.9	86.0	84.9	80.1	76.4	79.8	84.0	76.5	78.5	90.3	90.3	90.2	85.4	85.8	83.9	84.6
26.1	29.8	25.1	25.2	9.8	29.2	29.4	17.5	34.7	30.6	33.2	20.9	30.8	33.4	21.6	32.0
74.5	78.4	68.8	69.8	67.2	76.6	80.2	83.8	70.8	69.0	69.0	68.6	81.1	82.1	77.8	76.8
96.3	96.5	96.2	96.3	95.1	95.3	96.2	95.2	94.7	94.2	94.9	91.5	94.9	94.9	94.7	95.3
57.8	57.5	59.3	58.6	56.4	59.6	61.1	61.4	57.7	55.7	55.1	58.2	60.7	61.0	59.8	59.4
42.8	44.5	49.9	36.4	32.5	44.8	53.7	53.7	34.8	38.3	39.6	33.3	50.5	52.2	44.7	49.7
73.7	72.9	72.6	76.0	76.4	72.9	72.7	75.0	71.9	69.5	71.4	62.1	74.7	74.9	74.2	73.5
88.1	88.2	86.2	90.3	87.5	88.2	91.6	87.5	86.3	88.0	88.3	86.9	88.5	88.8	87.7	88.1
53.8	53.5	52.7	59.2	50.8	55.2	59.2	56.8	51.8	56.0	57.3	51.0	56.2	57.2	52.9	54.6
66.7	66.1	73.9	62.3	64.9	68.3	68.7	67.5	68.4	58.3	59.0	55.6	58.8	60.9	51.5	63.3
62.4	64.8	59.1	53.9	63.6	64.4	68.9	55.0	65.9	54.1	53.2	57.5	59.8	61.8	53.2	61.8
18.4	18.7	19.7	16.5	16.7	19.8	22.2	20.6	17.7	17.8	19.0	13.1	18.4	18.5	18.3	18.7
69.4	69.4	71.6	67.6	68.5	70.3	74.1	70.0	67.9	67.3	69.4	59.5	68.8	68.5	69.7	69.4
26.5	30.5	20.5	22.1	19.7	27.6	32.4	36.8	20.0	22.3	22.8	20.3	31.8	33.3	26.7	27.5
44.5	45.3	45.0	43.9	40.7	44.9	48.3	43.2	43.5	43.6	45.6	35.9	49.6	50.1	47.7	46.7
30.0	30.9	29.2	28.7	27.5	31.0	34.9	30.7	28.6	29.6	30.8	24.8	33.5	33.9	32.1	31.8
34.8	34.7	35.5	22.4	47.2	36.1	33.2	39.3	36.6	30.8	29.3	36.6	38.9	38.5	40.2	36.4
32.4	32.7	31.5	35.2	29.5	33.3	36.3	34.4	30.8	33.5	33.7	32.7	33.8	33.3	35.3	33.9
73.1	75.1	68.5	67.0	75.7	70.1	70.5	69.3	70.3	69.9	71.9	62.1	69.0	69.8	66.1	70.6
24.8	23.2	36.6	18.4	23.9	22.2	21.3	18.2	24.7	18.6	18.2	20.3	23.7	23.7	23.9	24.0
54.2	55.1	54.1	51.6	52.7	54.6	56.8	54.7	53.2	53.4	54.1	50.6	56.2	56.9	53.9	55.2

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1三	1一	55.3	66.7
書くこと	2	6一	6二	47.3	50.0
読むこと	15	3二、4四、 4五A、5二	3一、5一、 5四イ、5五、 5六	53.1	65.3
言語事項	8	2一(1)、2一(2)、 2二(3)、4一	2一(3)、2二(1)、 5三	61.2	63.8

内容・領域別に見ると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「言語事項」である。同程度だったのは、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」であり、通過率が低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「書くこと」、「言語事項」であり、通過率が低かったのは、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1三	1一	55.3	66.7
書く能力	2	6一	6二	47.3	50.0
読む能力	15	3二、4四、 4五A、5二	3一、5一、 5四イ、5五、 5六	53.1	65.3
言語につい ての知識・ 理解・技能	8	2一(1)、2一(2)、 2二(3)、4一	2一(3)、2二(1)、 5三	61.2	63.8

国語科は教科の特性から考えて、上記「ウ 内容・領域別結果の概要」と同じ構成になるが、本項目においては「能力」「知識・理解・技能」という観点で記述する。

観点別に見ると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「言語についての知識・理解・技能」である。同程度だったのは、「話す能力・聞く能力」、「読む能力」であり、通過率が低かったのは、「書く能力」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「書く能力」、「言語についての知識・理解」であり、下回ったのは、「話す能力・聞く能力」、「読む能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	一	26.1	65.0	「地球(自然)環境について(の問題)」(29.5)、「地球温暖化について」(16.5)、「無答」(12.0)、「環境のためにできること」(4.0)
3	一	32.0	40.0	「いうやう」(30.0)、「向かい」(10.5)、「無答」(9.0)、「言い合う、言った、つぶやいて等」(6.5)
4	三	49.7	70.0	「ア比喩法」(22.0)、「イ倒置法」(22.0)、「エ反復法」(5.0)、無答(1.5)
5	一	18.7	60.0	無答(31.5)、「ノモンを差し込み回りに円を描く(要約も含む)」、「影がどの位置にくるかで分かる(要約も含む)」(ともに9.5)、「円を描いて影がどの位置にくるか」(8.7)
5	四ア	46.7	80.0	無答(22.5)、「29日」(2.0)、「月の満ち欠け」(1.5)
5	四イ	31.8	80.0	無答(26.0)、「31日」(3.5)、「五日分」(3.0)
5	六	33.9	60.0	エ(29.0)、イ(28.0)、ア及び無答(各2.5)
6	二	24.0	40.0	無答(29.0)。無答を除く誤答の中で、「アの条件に合わない」(39.5)、「イの条件に合わない」(10.5)、「ウの条件に合わない」(16.5)、「テーマに合わない」(4.0) (※原因重複あり)

- 1一について
誤答の原因としては、冒頭に話された意見発表のテーマを聞き逃していることが考えられる。
- 3一について
誤答の原因としては、「いうやう」が多いことから、「やう→よう」に直すことを理解できていなかったと考えられる。また、「現代仮名づかい」とはどういうことかを把握していないことも考えられる。
- 4三について
誤答の原因としては、「ア比喩法」、「イ倒置法」が多いことから、表現技法の特徴を理解しておらず、日常の授業の中でよく使われている表現技法を選択したと考えられる。
- 5一について
誤答の原因としては、二つ考えられる。「①問題で指示してある『抜き出し』を勘違いしてしまったこと」、「②問題の『具体的な工夫』とは何であるのかを読み込めなかったこと」の二点である。
- 5四ア・イについて
誤答の原因としては、本文の説明を具体的に置き換えて読む力が弱いことが考えられる。
- 5六について
誤答の原因としては、「エ」や「イ」が多いことから「文章の全体を俯瞰して、何を述べているかをまとめる力」の不足が考えられる。
- 6二について
誤答の原因としては、無答が多いことから、何を書けばよいのか分からなかったことや解答時間が不足であったことも考えられる。また、誤答例別では、アの条件(工夫した表現に線を引く)を満たしていないものが多いことから、解答条件を理解できていなかったことが考えられる。ちなみに、線を引いていれば正答となるものは、解答全体の21.0%であった。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、特に「A 話すこと・聞くこと」と「C 読むこと」に関する指導の充実が挙げられる。そこで、今後の学習指導においては、以下の指導事項に重点をおいた学習が大切になると考えられる。

〈「A 話すこと・聞くこと」の指導について〉

(ア) 指導のポイント

- a 何のために話したり聞いたり話し合ったりするのかという意識をもち、場面や状況を考えた話し方や聞き方をすること。

指導に当たっては、話すことと聞くことの両面から考えていくことが重要であることを十分に踏まえ、声量・言葉遣い等の話し方の指導、話の内容を正確に聞き取る等の聞き方の指導、話し方・聞き方に関わる態度の指導のみに偏ることなく、系統的、発展的な指導が重要である。次のように、1単元の指導過程に「中間ミニ発表会」を設定し、観点を意識させる工夫をする指導も考えられる。

- ① 個人で話す原稿を作る。
- ② 中間ミニ発表会（小グループ）を開き、相互評価を行うことで、原稿をよりよくする。
- ③ グループとしての代表者を決め、全体での発表会を行い、「クラスNo.1」を決める。

「中間ミニ発表会～相互評価カード～」

☆よりよい発表を目指し、互いに高め合うアドバイスをしよう！

○観点：話し方	評価	○観点：聞き方	評価
①話題・主張の明確さ		①疑問点等を考えながら聞く	
②話の構成と展開		②自分の意見と比べて聞く	
③相手の反応への意識			



◎自分がレベルアップするために

〈「B 書くこと」の指導について〉

(ア) 指導のポイント

- a 誰に向けて何のために書くのかなどという意識をもつことで、目的や意図に沿うように工夫して書くこと。

「書くこと」の指導に当たっては、生徒の言語能力や言語体験などの実態に応じて、課題設定や取材、構成、記述、推敲、交流といった必要な指導事項を明確にして指導するとともに、「話すこと・聞くこと」「読むこと」などの他領域や他教科等との関連を図り、効果的な指導をすることが重要である。

(イ) 指導例 「『読むこと』及び学校行事との関連を図った構成・記述の指導」

1. 単元名「修学旅行のお勧めスポット紹介リーフレットを作ろう～資料を効果的に活用して書く～」
2. 単元の流れ
 - ① 地元の観光リーフレット等から、「a どんな情報が書かれているか」「b どのような構成で書かれているか」「c 写真や資料の引用の工夫」などをつかむ。
 - ② 旅行先のガイドブックを使い、お勧めスポットを紹介するリーフレットをつくる。

- * 参考とした観光リーフレット等（前頁①）との関連（取り入れた点）を明示させる。
- * ガイドブックからの引用の仕方について指導するとともに、複数の記事をまとめて要約したり、自分なりの表現を生かしたりすることを積極的にうながし、書き方で工夫した部分に線を引かせるなどする。

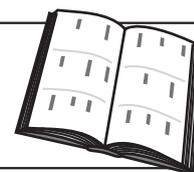
自分が知らせたいことだけでなく、読み手が知りたいことも考えて情報を選び、よりよい文章にするために効果を考えて、見直したり書き直したりすることも大切です。言語についての知識・理解・技能の指導も合わせて行うといいでしょう。



〈「読むこと」：文学的な文章の指導について〉

ア) 指導のポイント

- a 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。
- b 必要な情報を集めて、自分の表現に役立てること。



「a 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」について

説明や描写、比喩など様々な表現の技法について理解することが含まれる。比喩、反復、省略、倒置、対句などが挙げられるが、「比喩」や「反復」などの名称と結びつけて、表現の技法の意味や用法を指導しなければならない。

「b 必要な情報を集めて、自分の表現に役立てること」に関しては、次項でまとめて述べる。

〈「読むこと」：説明的な文章の指導について〉

ア) 指導のポイント

- a 書き手の論理の仕方を的確にとらえ、内容を理解すること。
- b 文章の展開に即して内容をとらえること。

「a 書き手の論理の仕方を的確にとらえ、内容を理解すること」について

筆者の論理の展開を的確に捉えるためには、文章を筆者の思考の流れに沿って、その展開を把握することが大切である。その際には、次のような指導が考えられる。

- ① 小段落ごとの内容や段落相互の関係をとらえる。
 - ② 大段落が文章全体の中でどんな役割をもっているかをとらえる。
- * ①や②の指導に当たっては、文末表現や接続の言葉等に気を付けさせるとともに、図表等を使って整理することも大切である。
- ㊦ 小学校での既習事項を確認しながら学習を進めていくこと。（「頭括型」等や「冒頭部→展開部→集結部」等といった文章全体の構成は既習事項である。）



- ① 上欄で培った力を基に、「自分の表現に役立てること」に指導の重点を置く。
- ㊦ 「B 書くこと」の指導との関連を図ることも大切になる。具体的には「筆者の論理の展開を使って書き換えてみる」等といった場面を設定することで、筆者の書きぶりを自分のものとして会得できるようにする指導もできるであろう。

「b 文章の展開に即して内容をとらえること」について

要点や内容を読み取ることができてはじめて文章の理解は可能になる。そのために、目的や必要に応じて要約することも大切である。

㊦ 小学校での既習事項を確認しながら学習を進めていくこと。（「要約」等や引用の仕方は既習事項である。）

上記 a、b のいずれにせよ、たとえば「1 時間目：小段落 1 と 2 を要約しよう」「2 時間目：小段落 3 と 4 を要約しよう」「3 時間目：小段落 5 ～ 7 …」といったように、何のために要約するのかという目的が明確でないまま、同じ学習活動が何時間も連続することのないようにしたい。

説明的な文章の授業に限ったことではないが、要は「この単元では、どんな「読むこと」の力を付けたいのか」また「そのために、本時はどういった学習を行えばよいのか」を明確にしながら、実生活で生きてはたらく国語の力を付けていきたいものである。

(イ) 指導例 「文章の展開に即して内容をとらえる指導」～学校図書館の活用～

1. 単元名「学校図書館の本の中から、学級文庫としてふさわしい一冊を紹介しよう」

2. 単元の流れ

- ① 学校図書館にある本の中から、学級文庫として置きたい本を一人一冊選ぶ。
- ② 自分が選んだ本から、紹介したい箇所を探し出してまとめていく。（本を読む時間については、朝読書等の時間を活用する。）
- ③ 本の中で紹介したい箇所と作成した文とを比較し、確かにまとめられているかを小グループで検討する。
- ④ 紹介文をもとに、小グループで「お薦めの一冊」を選び、学級文庫として備える。



ポップや本の帯を作成するという指導も考えられます。また、この流れは、説明的な文章のみならず文学的な文章等にも応用できます。指導の際には、アレンジしてみることも提案します。

質問紙調査の国語科に関しては、母集団が同じである前回調査（H20実施）と比べたところ、「好きだ」「大切だ」の項目では大きな差はないと判断できる（5段階を3段階に直して比較している）。また、「授業の理解」に関しては、若干下がり気味であると判断できる。さらに、H20年度の中2と比較したところ、同じ三つの項目における差はあまりない。

全国学力・学習状況調査同様、国語科における「学ぶ意欲」を高めるための指導改善が必要となる。具体的には次項で取り上げる。

キ まとめ

来年度の新学習指導要領全面実施に向けて、次の4点に留意して指導に当たることを提案する。

- (ア) 育成を目指す言語能力を明確にして指導すること。
- (イ) 言語活動例の具体化を図り、計画的に指導すること。
- (ウ) 生徒の「主体的な学び」と「伝え合い」を重視して指導すること。
- (エ) 単元の評価規準を言語活動と関連付けて設定し、学習評価を学習指導の改善に生かすこと。

※ 「言語活動の充実に関する指導事例集」（文部科学省）及び「評価規準の作成のための参考資料及び評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を十分に活用してほしい。